重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	安全に遊べる自然の場所がある	
施策名	自然の中で安全に遊べる場所を確保する	No.25

年度	平成27年度
責任部長	建設部まちづくり担当部長
主担当課長	公園緑地課長
関係課	—

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
自然の遊び場が身近にあると思う人の割合（%）	↗	40.6	43.4	44.8	45.6	46.7	45.1	49.3
		45.1	45.3	46.0	47.3			56.2
自然の遊び場で危険を感じたことのある人の割合（%）	↘	25.5	23.6	19.9	19.2	19.5	16.9	20.9
		16.9	16.2	19.7	19.6			17.4
河川敷公園・緑地の面積（ha）	↗	—	—	—	—	—	—	—
		110.75	110.75	113.53	129.36			124.00

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

自然環境に関心を持ち、自然の中でアウトドアを楽しむ人が増えていることや、ボランティア等による公園緑地の清掃や美化に関心を持つ人が増えている中、個人・家庭では散歩・ジョギング・サイクリングなどに親しみ、健康や体力増進への関心が高まっている。また町内会・ボランティア団体による公園・緑地の清掃活動や民間企業の環境への関心が高まってきている（ISO等）。さらには学校でのビオトープ等自然環境教育の取り入れや、国営木曽三川公園の整備計画に基づき公園整備が進められている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	A 改善傾向	「自然の遊び場が身近にあると思う人の割合」については、目標値以下であるが増加傾向であることや、木曽川沿川緑地など年々整備され、国営木曽三川公園とのアクセスが便利になることで今後、さらなる割合増加が見込まれる。また「自然の遊び場で危険を感じたことのある人の割合」については目標値を達成しているが、今後も安全点検等を継続的におこなう必要がある。また河川敷公園・緑地の面積について、木曽川沿川緑地の整備が計画的に整備されており、今後も面積増加が見込まれる。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

＊＊＊